

児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究〈4年次〉

～教育相談的な手法を生かした「校内研修実践資料（高等学校版）」の開発を通して～

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 小松はる佳

1 研究の趣旨

本研究の目的は、「校内研修実践資料」の開発を通して教員及び教員組織の児童生徒を支援する力を向上させることにある。

平成22年度に実施した「教員のメンタルヘルスに関するアンケート」の調査から、教員が生徒指導力や人間関係を円滑に結ぶスキル等を身に付ける必要性、教員集団が組織として機能することの重要性が確認できた。そこで、教員個々の力量向上と教員集団の組織力向上の両方の機能を併せ持つ校内研修に着目し、教員が児童生徒を支援する力を個人かつ組織として高められるよう研究を進めることとした。

平成23年度は児童生徒を支援する力を高めるために必要な教員の力（スキル・態度等）を選定し、選定した力を効果的に高めていくことができるような校内研修実施案（講義案・配付資料・プレゼンテーション資料）の考案を行った。そして、それをもとに研究協力校等において校内研修を実施したところ、教員の校内研修に対する満足感や同僚性の高まりがみられた。

平成24年度は、児童生徒を支援する力を高めるために必要な教員の力の分析を進めるとともに、学校において教員自らが研修を進行し児童生徒を支援する力を高められる実践資料（進行案・演習資料等）づくりを行った。この資料を活用して研究協力校で校内研修を行った結果、研修者の満足感や理解度とともに、その後の実践につなげようとする意欲の高まりを確認することができた。また、研究の成果については「校内研修実践資料（小学校版）」としてまとめた。

昨年度は「校内研修実践資料（中学校版）」の開発を通して、教員及び教員組織の児童生徒を支援する力を向上させることに加えて、「校内研修実践資料」の普及のためのPR及び専門研修内での進行者の育成を行った。

今年度は、引き続き教員及び教員組織の児童生徒を支援する力を向上させることを目指し、「校内研修実践資料（高等学校版）」の開発を進めている。また、より多くの学校で「校内研修実践資料」を活用してもらうために小・中学校へ校内研修実践資料集を送付するとともに使用状況アンケートを行った。

2 研究の概要

(1) 教員自身が児童生徒を支援する力を高める研修についての理論研究及び「校内研修実践資料」の考案

- ① 児童生徒を支援するために必要な教員の力（スキル・態度等）の構成内容の分析
- ② 研修を進める教員や研修者のニーズに応じた「校内研修実践資料」（案）の考案

(2) 研究協力校（高等学校）における実践と検証

- ① 研究協力校（3校）における「校内研修実践資料」（案）の検証と修正
- ② 校内研修への参加を促すための事前の準備
- ③ 校内研修の有効性を検証するアンケート調査の実施

(3) 「校内研修実践資料」活用促進のための情報発信

- ① 「校内研修実践資料（高等学校版）」の教育センターWebサイトへの掲載
- ② 所報「窓」や「研究紀要」を通じた研究成果の発信
- ③ 専門研修などでの「校内研修実践資料」の紹介、配布

(4) 「校内研修実践資料」普及のための進行者の育成

- ① 専門研修における「校内研修実践資料」を活用した代表者による実習
- ② 専門研修での実習終了後の各学校での実践、報告

(5) 「校内研修実践資料」普及のための資料の改善

- ① 県内全小・中学校（中核市を除く）への校内研修実践資料集の送付
- ② アンケートによる使用状況や見直しの視点の把握
- ③ Webサイトへの研修場面等の動画の掲載

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 高等学校での実践やアンケートにより、より使いやすい「校内研修実践資料」とするための見直しの視点を捉えることができた。
- ② 校内研修実践資料集の専門研修での紹介や配布、小・中学校への送付などによるPRの効果がみえた。

(2) 課題

- ① 小・中・高それぞれの校種でのニーズに合わせた校内研修の持ち方や「校内研修実践資料」の提案をしていく必要がある。
- ② 高等学校の学科等の特徴やニーズを十分に把握した上で「校内研修実践資料」の開発を進めていく必要がある。